

6 事例の地域課題を7つの構成要素に分類する

	地	医	住	社	当	家	人
	地域精神保健及び障害福祉	精神医療の提供体制	住まいの確保と居住支援	社会参加	当事者・ピアサポーター	精神障害を有する方等の家族	人材育成
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村における精神保健に関する相談指導等について、制度的な位置付けを見直す。 ○ 長期在院者への支援について、市町村が精神科病院との連携を前提に、病院を訪問し利用可能な制度の説明等を行う取組を、制度上位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平時の対応を行うための「かかりつけ精神科医」機能等の充実を図る。 ○ 精神科救急医療体制整備をはじめとする精神症状の急性増悪や精神疾患の急性発症等により 危機的な状況に陥った場合の対応を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活全体を支援するという考えである「居住支援」の観点を持つ必要がある。 ○ 入居者及び居住支援関係者の安心の確保が重要。 ○ 協議の場や居住支援協議会を通じた居住支援関係者との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的な孤立を予防するため、地域で孤立しないよう伴走し、支援することや助言等を行うことができる支援体制を構築する。 ○ 精神障害を有する方等と地域住民との交流の促進や地域で「はたらく」ことの支援が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ピアサポーターによる精神障害を有する方等への支援の充実を図る。 ○ 市町村等はピアサポーターや精神障害を有する方等の、協議の場への参画を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神障害を有する方等の家族にとって、必要な時に適切な支援を受けられる体制が重要。 ○ 市町村等は協議の場に家族の参画を推進し、わかりやすい相談窓口の設置等の取組の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「本人の困りごと等」への相談 指導等や伴走し、支援を行うことができる人材及び地域課題の解決に向けて関係者との連携を担う人材の育成と確保が必要である。
R3にまとめた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイムリーな支援システム ・ 多数ある支援を使いこなすマネジメント力 ・ 計画相談事業所の数 ・ 長期入院者のいる病院への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・福祉の相互の理解はどうか。 ・ 病院内での職種により、制度の理解度が違う。 ・ 病院の地域移行事業所受入れ体制。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不動産屋や新規グループホーム等の障がいへの理解 ・ 居住支援法人との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労以外での社会参加（居場所づくり） ・ 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポーターの養成と研修 ・ 活躍の場 ・ 雇用につながる働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族への支援体制（理解、高齢化） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多数ある連絡会等のつながり ・ 医療と福祉の連携 ・ 事例検討での研修の場
1事例目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有・活用の充実（基幹など） ・ 理解してもらえ地域づくり ・ 一緒に考えてくれるシステム（簡単に） 			<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギーをそそげる場（スポーツ、図書館など） ・ メンバー活用の仕組み（事例検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に考えてくれるシステム（簡単に） ・ メンバー活用の仕組み（事例検討） ・ ピアサポーター同行（自立生活援助） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有・活用の充実（基幹など） ・ 人材育成（中核+つなぐ） ・ 一緒に考えてくれるシステム（簡単に）
2事例目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中の相談の場 ・ 年齢のはざま ・ 病院→地域へのつなぎ目 ・ 情報の交通整理…この場をどうやって作っていくか ・ 相互理解…分野（教育等）を超えて…この場をどうやって作っていくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院→地域へのつなぎ目 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中の相談の場 ・ 年齢のはざま ・ 病院→地域へのつなぎ目 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピア（思春期）（先輩）の人材バンク→セルフマネジメントへ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中の相談の場 ・ 子どもをかかえる家族の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育から近づいて来てほしい ・ ピア（思春期）（先輩）の人材バンク→セルフマネジメントへ ・ 相互理解…分野（教育等）を超えて…この場をどうやって作っていくか

	地	医	住	社	当	家	人
	地域精神保健及び障害福祉	精神医療の提供体制	住まいの確保と居住支援	社会参加	当事者・ピアサポーター	精神障害を有する方等の家族	人材育成
3事例目	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの頻度・変更のタイミング ・ホームヘルプの支給がスムーズに出来たらよかった ・関係機関が顔の見える関係づくり（情報ネットワークの利用等） ・障がい→介護へ切り替わる時期のつなぎ。意識して関わる ・就労Bの特徴など一覧でわかるように ・グループホーム等次々増える事業所の情報をどこでどうまとめるか ・休息目的でショートステイ等使える所が1か所しかない ・色々なサービスをつないでいく仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が顔の見える関係づくり（情報ネットワークの利用等） ・医療とのつながり方 ・安定しているときにも会議が必要かも 		<ul style="list-style-type: none"> ・社協のあったかサービス ・障がい→介護へ切り替わる時期のつなぎ。意識して関わる 			<ul style="list-style-type: none"> ・年度替わりの担当の引継ぎ方 ・安定しているときにも会議が必要かも ・福祉ケースワーカーや保健所等との関わり ・関係機関が顔の見える関係づくり（情報ネットワークの利用等）
4事例目		<ul style="list-style-type: none"> ・医療中断の時に、訪問する医療 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中体験の場が欲しい ・ショートステイの日中（都事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の方とのつながり ・同行支援（できたらいい） ・ショートステイの日中（都事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートをどうやればいいのか ・スタッフの養成をしなければ ・足立区全体でピア体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の方とのつながり 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の場（共有の場が少ない）
5事例目	<ul style="list-style-type: none"> ・どの機関がどんなことをしているか分かるものがあるといい ・NPO、民間団体の支援を知る機会 			<ul style="list-style-type: none"> ・町会などの地域コミュニティ ・本人の生活や困りごとを聞いてくれる人 ・登録しなくても使える地域活動支援センターのようなところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの機関がどんなことをしているか分かるものがあるといい ・NPO、民間団体の支援を知る機会 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの機関がどんなことをしているか分かるものがあるといい ・高齢分野との連携のハードル高い ・NPO、民間団体の支援を知る機会 	<ul style="list-style-type: none"> ・町会などの地域コミュニティ ・高齢分野との連携のハードル高い ・本人の生活や困りごとを聞いてくれる人 ・支援者のための相談窓口 ・支援者へ行政資源の情報提供をしてくれる人（行政支援コーディネーター） ・民生委員と顔の見えるつながり
6事例目	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援をチームにする仕組み作り ・分野別になっている取りまとめ役割（基幹） ・親・子の支援者の連携 ・相談窓口が複数になっている連携と情報共有（福祉事務所のチーム参加） ・各機関間の情報共有と動かす仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面・専門職が不足 			<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーター・ペアレントメンターの活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・医療面・専門職が不足 ・相談窓口が複数になっている連携と情報共有（福祉事務所のチーム参加）